

丹波中生徒会の歌

(S. 49. 6)

成島 宗治 作詞
一之瀬泰仙 作曲



やまかい のはるは まだあさく
したたる みどりの かぜさやか



かわかぜ さむく ふくとても
ひりゅうの みねに うかぶくも



あたらしいと し の しゅつばつ に
だんけつの一 い き たからかに

(3. 4)



あつい ころを たぎらせて われらはひらく
せつさ たくまの ひをつんで われらはすすむ



せい と か い
せい と か い

四、さおらの嶺から
吹きおろす
肌をさす
風はきびしく
躍動の日の
思い出は
友情の火と
燃えさかる
われら丹波中
生徒会

三、丹波川の水はいや澄みて
紅葉ゆたかに映ゆる嶺
英知の泉 共にくみ
学園祭に 夢託す
われらの仲間生徒会

二、したたる緑の風さやか
飛竜の嶺にうかぶ雲
団結の意気高らかに
切磋琢磨の日を積んで
われらは進む生徒会

一、山峡の春はまだ浅く
川風寒く吹くとも
新しい年の出発に
熱い心をたぎらせて
われらはひらく生徒会